



工業会

The Japanese Association For Non-Destructive Testing Industry (JANDT)

発行元 一般社団法人日本非破壊検査工業会
 〒101-0047
 東京都千代田区内神田2丁目8番1号 富高ビル3F
 電話 03-5207-5960 FAX 03-5207-5961
 URL : <https://www.jandtr.or.jp/>
 編集 : 広報部会

令和8年 非破壊検査業界 新春賀詞交歓会を開催

令和8年1月9日(金)、東京都千代田区の如水会館にて「非破壊検査業界 新春賀詞交歓会」を開催した。関係省庁及び関係団体等からの来賓50名を含めて、業界関係者など200名ほどの方々にご出席をいただいた。

開会にあたり、主催者を代表して長岡康之理事長は「非破壊検査業界の新春賀詞交歓会に、多くの方のご列席を賜り誠にありがとうございます」と謝辞を述べた後「ご列席の皆様も「形あるものは壊れる」との言葉をご存じだと思います。インフラ等の構造物も同じでこれに抗うことはできませんが、非破壊検査の技術で未然に防ぎ持続可能な社会を構築していくことができます。これはSDGsにもつながります。しかしながら、国の技術者単価が上昇しても、非破壊検査技術者の評価に十分反映されにくいのが現状です。当工業会では、認証資格を国家資格化することで、この問題に取り組んでいきます。ご参列の皆様の絶大なるご支援を賜りたくお願い申し上げます」と挨拶した。

来賓挨拶は、秋野公造参議院議員より「配筋探査の国家資格化に取り組む目的として、厚生労働省の技能検定に認められれば名称独占資格となることから、質の向上と技術者の処遇改善への両輪の取り組みを目指すことができる。是非とも皆様のお力添えのもと協力して国家資格化を目指していきたい」とご祝辞をいただいた。

続いて、国土交通省の廣瀬昌由技監は、「昨年1月の八潮市陥没事故をうけて、国土交通省では緊急点検と路面下空洞調査を実施した。また、昨年5月には 国民とともに守る基礎インフラ上下水道のあり方として、安全性確保を最優先とする取組みを提言している。理事長のご挨拶にもありましたが、予防保全が本来あるべき姿、非破壊検査技術の力を借りて、現場職員がしっかりと把握していくことが必要」とご挨拶をいただいた。

また、経済産業省製造産業局の須賀千鶴産業機械課長からは「年初から激動の1年を予感させる出来事が多く、官民一体で乗り切ることが求められるなか、各種講習会等に積極的に取り組み、業界の発展・裾野の拡大や国家資格化などを目指した活動や、点検技術のデジタル化・新技術の活用等の先進的取組みをリードする活動を通じて、日本の産業の安全や競争力の確



賀詞交歓会のもよう

保に貢献していただけるものと期待している」とご挨拶をいただいた。

続いて、日本非破壊検査協会の落合誠会長から「長い歴史がある箱根駅伝でも毎年新記録を更新しており、限界と思われていてもまだまだ伸びしろがあると実感している。我々の非破壊検査技術がインフラを確り支えているとの自負と誇りはあるが、ややもすると成長が止まってしまうこともある。まだまだ伸びて行くと信じているので、今年1年を飛躍の年としていただきたい」とご挨拶をいただいた。

来賓挨拶を経て、日本溶接協会の青山和浩会長より「溶接と非破壊検査の関係はPDCAである。Doが溶接でCheckが非破壊検査である。PDCAの中でもCheckが重要でサイクルを数多く回すことで知識が積み重なる。非破壊検査業界の方々には、Cの高度化・Cの技術革新を期待する。新しい社会基盤の構築には非破壊検査が必要である」とご挨拶をいただき乾杯のご発声となった。会場を埋めた出席者による歓談の輪が広がり、新年の挨拶が交わされていった。

宴たけなわのなか、当工業会の清水重之副理事長の三本締めで閉会となった。



長岡康之理事長



秋野公造
参議院議員



国土交通省
廣瀬昌由技監



経済産業省
須賀千鶴産業機械課長



日本非破壊検査協会
落合誠会長



日本溶接協会
青山和浩会長

令和7年度 合同例会を開催

10月8日、令和7年度の合同例会が西日本支部の主催にて参加者49名のもと福岡県福岡市の「稚加榮博多店」で開催された。主催者を代表して清水重之西日本支部長は「多くの会員の皆様が遠方まで足を運んでいただきありがとうございます」と謝辞を述べ、「活発な意見交流を図り、会員各社の益々の発展を祈念します」と開会の挨拶をした。長岡康之理事長は「業界全体の人手不足が慢性化している、一方では技術単価UPが求められているが実態はなかなか厳しい、業界全体の地位向上が最有力と考える。当工業会では、配筋探査技術者の国家資格化に取り組んでいる。このような取り組みや業界情報のプラットフォームとして広報部会でLINE登録による配信をする。今後も会員の皆様に満足していただき、魅力ある工業会にしていくのでご協力をお願いする」と挨拶した。続いて、本部報告は渡邊正宏専務理事から運営体制・年間行事・外部団体活動等について、日比和彦広報部会長、安田裕之技術部会長、坂本敏弘教育部会長、山中伸晃認証部会長、猿渡保安全部会長がそれぞれの部会活動について説明した。特別公演は、九州歴史資料館の宮地総一郎氏より「大宰府史跡等について」と題した講演が行われた。その後開催された懇親会では、小田原勝彦東日本支部長による開会の挨拶、長岡理事長の乾杯の音頭により開宴され、「稚加榮博多店」の料理に舌鼓を打ちながら、「博多券番」の余興で花を添えて頂き、活発な情報交換と親睦の輪が広がり、宴もたけなわのところの場正文関西支部長の一本締めにて散会となった。



合同例会のもよう

東日本支部 年末例会を開催

東日本支部は、令和7年度年末例会（参加者32名）を12月3日に川崎市商工会議所で開催した。

主催者挨拶として小田原勝彦支部長は「検査会社は、安全・安心な社会を支える重要な役割を担っている。現場における安全管理の徹底や新たな検査手法の導入など、品質の確保・向上に日々取り組んでいただいているが、今後はデジタル技術の活用やAIを用いた解析技術、ドローンによる検査などが一層不可欠となり、業務の在り方そのものの変革が求められている。引き続き、支部活動を通じて課題を共有し、相互の連携を強化していきたい」との挨拶があった。長岡康之理事長の来賓挨拶に続き、東日本支部会務報告、委員会報告及び本部関連報告が行われた。

特別講演は、東京理学検査の田中崇代表取締役による「非破壊検査業におけるコンプライアンスと倫理について -企業不祥事を起こさないための職場風土づくり-」と題した講演が行われた。繰り返し発生する企業不祥事を、組織の風土・習慣等に起因するカビ型と、個人による予測できない単発のムシ型に類別され、各々の特徴や原因等について具体的事例を交えて解説された。直接的な原因として納期、人手不足、これまでの慣習、内外からの圧力等をあげ、コンプライアンス違反をまねきやすい圧力に対して、法令を順守するとともに倫理を遵守することが社会の期待に応えることになることが説明された。また、組織内にコンプライアンスを浸透するための5項目を実践することが示された。

最後に、「コンプライアンスは、一人ひとりの判断と行動に現れる」と述べ、参加者へ自らの業務姿勢を振り返る重要性を呼びかけ、日常業務の在り方を見直す貴重な機会となった。



例会のもよう

豊かな経験・確かな技術

非破壊検査全般 ◆ 建築物設備配管劣化診断 ◆ コンクリート躯体調査・埋設物調査

JASCO 株式会社 ジャスコ
JAPAN SKIAGRAPH CO., LTD.

本社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜1-23-3
TEL 045 (473) 5140 FAX 045 (473) 5141
札幌営業所 〒003-0833 札幌市白石区北郷3条11-4-20
TEL 011-875-4166 FAX 011-875-0666
E-mail: eigyou@kk-jasco.co.jp http://www.kk-jasco.co.jp/

アンカー工事
スタッドハツリ
耐震補強
引張試験
鉄筋探査
ダイヤモンド販売
コアビット販売
ハンドカッター販売
カップサンダー販売
道路用ブレード販売

社団法人 日本建設あと施工アンカー協会加盟
中央総業株式会社
神奈川相模原市南区相模大野3-20-1 中央総業ビル4F
☎ 0120-07-1222 FAX 0120-07-5585

関西支部 令和8年新春賀詞交歓会を開催

関西支部は、1月14日に大阪市北区のホテルグランヴィア大阪にて、関西地区非破壊検査業界令和8年新春賀詞交歓会を開催、関西地区における非破壊検査に係わる行政、団体及び会員など85名が参集した。

冒頭の挨拶にて、的場正文支部長は「産業設備の老朽化対策が社会課題として一層明確になってきた。安全性の確保・稼働信頼性の維持、適切な設備更新・補修診断、いずれも非破壊検査は欠かすことのできない技術であり、重要性が年々高まっている。一方で、技術者は年々減少傾向にあり、技術伝承・デジタル技術への対応、検査品質の標準化及び高度化など多くの課題にも直面している。魅力ある業界作りの一環として、当工業会本部では検査資格の国家資格化や受注単価の底上げなどが必要不可欠であると考え、鋭意取り組んでいる。また、関西支部では技術者育成の各種講習会などを開催し、若手技術者の育成といった課題にも積極的に取り組み、業界の認知度向上に努めて行きたいと考えている」と挨拶した。

続いて、鰐淵洋子衆議院議員及び高橋みつお参議院議員並びに山本かなえ公明党中央幹事からもご挨拶をいただいた。行政から、近畿地方整備局の齋藤博之局長及び大阪労働局労働基準部の山口浩光健康課長並びに近畿経済産業局製造産業課の栗原浩介課長補佐からもご挨拶をいただいた。その後、祝電が紹介された。

JSNDI関西支部の横野泰和支部長の発声による乾杯が行われ祝宴へと移った。会場では、来賓及び会員同士の歓談の輪が広がり、祝宴が盛り上がった、定刻となって藤井富昭関西支部幹事の中締め挨拶と三本締めにより散会となった。



的場正文関西支部長

西日本支部 令和8年経営交流会及び賀詞交歓会を開催

1月23日、西日本支部(清水重之支部長)は北九州市小倉北区の「リーガロイヤルホテル小倉」にて、令和8年経営交流会及び賀詞交歓会を開催。会員並びにご来賓など51名が参集した。

経営交流会は「非破壊検査業界の課題に対する工業会の取り組み」と題して、インフラ調査士資格を仕事に結びつける取り組みや、配筋探査資格の国家資格化に向けての取り組みについて、当工業会の長岡康之理事長からご講演いただいた。その中で、インフラ調査士資格を仕事に結びつける一つの手段として建設コンサルタントへ登録することの優位性を説明された。また、配筋探査資格の国家資格化に向けては官民一体となつての取り組みの重要性を説明された。

経営交流会の終了後は、会場を移し清水支部長の主催者挨拶があり、来賓挨拶として秋野公造参議院議員、福岡県議会の塩出麻里子議員、北九州市議会の中島隆治議員、日本非破壊検査協会九州支部の村山理一支部長、福岡県溶接協会の友松一郎理事長とご挨拶をいただいた。九州工業大学の加藤光昭名誉教授の乾杯のご発声で懇親会が開宴し、和やかな歓談が行われた。定刻になり、松村康人顧問の中締め挨拶で散会となった。



経営交流会のもよう



懇親会のもよう



清水重之
西日本支部長

お客様と社員に信頼される



企業でありつづける

溶接検査株式会社

本社：〒985-0853

宮城県多賀城市高橋4丁目13-1

TEL：022-352-3459

FAX：022-352-3460

URL：http://yosetsukensa.com

出張所：山形・秋田

技術と信頼であらゆるニーズにお答えします

"High Quality Inspection Service"



株式会社 アイ・エム・シー

事業内容 ■ 非破壊検査全般 ■ タンク・プラント保守検査
■ インフラ点検全般 ■ 品質管理業務

認定 (一社)日本溶接協会(CIW)認定 A種
ISO9001 認証 JMAQA-1790

一般建設業許可 国土交通大臣許可(般-6)第23267号 他
本社 〒652-0898 神戸市兵庫区駅前通5丁目3番14号

TEL 078(577)3691 FAX 078(576)2008

URL <https://imc-ndi.com>

事業所 千葉事業所/中部事業所/関西事業所

日本アイソトープ協会 川崎技術開発センター見学会開催

機材支部RT分科会(西田研二委員長)主催で、日本アイソトープ協会の川崎技術開発センター見学会を11月21日に開催した。募集定員数を越えた応募があり、主に会員各社で放射線管理に従事している17名の参加で盛況のうちに終了した。

本センターは、工業用および医療用のアイソトープ(放射線源、放射性試薬等)の輸入・加工、品質検査、安定供給を行う施設であり、非破壊検査のインフラ的な性格を持つ。普段使用しているガンマ線源(Ir192、Co60)等の製造・加工、品質検査等には、会員各社では直接関わることはない。本施設は、アイソトープを扱うために内部は厚いコンクリートで完全に遮蔽され、また製品を製造するラインでは、遠隔で微細な放射線源を大型のマニピュレータで操作する工程など、放射線源を安全に取り扱うことができるような様々な配慮がされており大変興味深く見学した。

今回、一般見学が難しいこのような施設を訪問できたことは、日頃放射線を取り扱っている見学者にとって、初心にかえり、これまで以上に気を引き締めて放射線管理の重要性を再認識する貴重な機会になった。

最後になるが、このような施設見学の貴重な機会を提供いただいた日本アイソトープ協会様に感謝する。



見学会のもよう

「放射線安全管理功労者表彰」を受賞

当工業会安全部会(猿渡保部会長)の放射性同位元素等安全管理委員会委員長である釜田敏光氏は、令和7年11月10日、東京都港区にある原子力規制庁において放射線安全管理功労者として表彰された。放射線安全規制検討会の委員や非破壊検査工業会の活動等をとおして、放射線を用いた非破壊検査における標準化の確立等、非破壊検査における放射線安全管理に貢献した業績が認められての受賞である。

この「令和7年度放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰」は、原子力安全技術センター、日本アイソトープ協会、日本分析センター及び放射線障害防止中央協議会、原子力規制委員会の後援を得て実施され、放射性同位元素等の安全管理又は環境放射能対策の向上のために尽力して優れた成果を上げた個人に対して表彰を行い、原子力規制委員会委員長賞が授与された。令和7年度は、放射線安全管理功労者11名、環境放射能対策功労者3名の方が授賞された。表彰式には、受賞者をはじめ、原子力規制委員会委員、原子力規制庁幹部の方々、功労表彰審査委員会の先生方等約60名のご来賓の方々が列席した。



釜田敏光氏



表彰式のもよう

CIW 認定 A種 想像から創造へ 今感動の技術
労働者派遣事業許可
ISO9001 認証 JMAQA-1749



- 非破壊試験検査全般
- 各種プラント保守点検
- 品質管理
- 建築・土木構造物調査診断
- 各種設備・配管劣化調査
- 破壊試験・化学分析等材料試験

本社 〒530-0043 大阪市北区天満4丁目14番13号
TEL.06(6354)3641 FAX.06(6354)2707



社会インフラの
安心と安全を守
ります!

非破壊検査

インフラ調査

プラント検査

 東洋検査工業株式会社

【本社】〒640-8306 和歌山市出島 31-5 TEL:073-471-1311 FAX:073-474-6211
【支店・営業所】大阪府堺市/和歌山県和歌山市/茨城県神栖市

超音波探傷器に搭載したIOT技術の紹介

1. はじめに

超音波探傷検査は、材料・構造物内部のきずを非破壊的に検出する主要な手法として、航空宇宙、原子力、製造・インフラ構造物の安全性評価に広く用いられており、近年のデジタル技術の発展は、従来の演算・可視化機能に留まらず、データ高度化・遠隔性・リアルタイム解析へと超音波検査技術の適用範囲を拡大している。IOT技術を搭載した超音波探傷器USM100（写真1）は、従来型の階層メニューから、視覚的識別性を高めるピクトグラムやタッチ操作中心のインタフェースへシフトし、使用頻度の高い機能にすばやくアクセスできるサイドバー機能等により、ヒューマンエラー等の操作ミスの低減やデータ取得精度の安定化を可能とする。

充実したユーザーインターフェースにより、不要な操作を限りなく少なくし、優れた操作性を実現した。

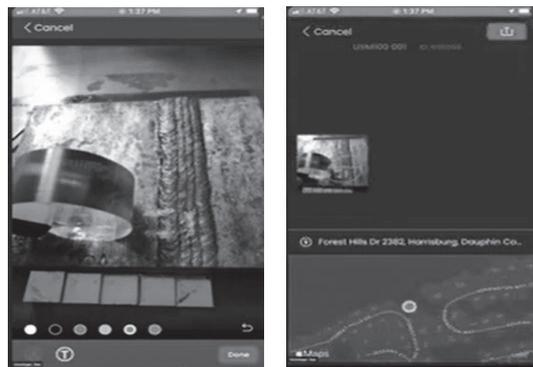


写真1 USM100

Waygate Technologies

2. iOSアプリ -USM クライアント

デジタル技術の更なる活用として、機器本体にてAスコープ表示での探傷時に、きずエコーのAスコープとともに試験体などの写真や位置情報を保存できる。写真やコメントなどを個別に撮影記録が不要となり、機器本体で波形、写真、位置情報を1つのレポートにでき、レポート作成などの時間削減に効果がある。



3. デジタル技術機能画面共有及び完全操作

同一IPアドレスにてWiFi経由でPC・スマホ・タブレットから本体の画面共有が可能である。本機能を活用することにより現場と事務所を行き交う必要なく、即座に技術支援を得ることができる。移動時間の削減などに大きな効果が発揮できる機能である。

4. 自動レポート生成サービス

PDF等の自動レポート生成機能は品質保証・トレーサビリティの観点から重要であることから、機器設定情報、探傷画面コピーをPDFレポートとして自動作成できる。本機能を速報的な報告資料として活用することで、レポート作成に要する時間を約30-40%削減することが可能である。

5. Inspection Worksクラウドサービス

機器本体からWiFi又はPCより、機器設定・探傷データ・画面コピー・レポートなどをクラウド上に保存することができる。現地で取得した探傷データをInspection Worksクラウドにアップロードし、本社のレポート作成チームが探傷データを即時に確認、探傷データへのコメント追加や、リアルタイムで探傷レポートを顧客へ提出することが可能である。データセキュリティの各国規格にも準拠している。

Inspection Works コンセプト



- 機器設定(upsファイル)
- 探傷データ(mdpファイル)
- 画面コピー (JPG)
- データレコーダー (CSV)
- ➔ Inspection Worksに保存、ダウンロード可能

業界初!



- WiFi経由で画面共有
- PC側からUSM100操作が可能



問合せ先：株式会社KS-NET 東日本営業グループ 柳橋 亜沙美

TEL : 03-3987-0351 FAX : 03-3987-8715 E-Mail : a-yanagibashi@ks-net.ne.jp HP : https://www.ks-net.ne.jp

屋外貯蔵タンクの効果的な予防保全に関する調査検討

1. はじめに

特定屋外貯蔵タンクは、石油化学プラントなどにあり、鋼板を溶接組立した構造である。底部溶接部の点検・検査はMT又はPTだが、品質保持や腐食防止を目的としたコーティングがある場合、コーティングの剥離、再塗装を伴うため、新たな技術による点検・検査の効率化が望まれており、その一つとしてECTの調査検討を実施した(図1参照)。



図1 屋外貯蔵タンク(例)

2. 検討の方法

本調査検討に関して当工業会会員から参加企業を募集してETWG(15社)を構成し技術情報を共有し、10社による室内試験及び実機試験を実施した。なお、検出目標の基準きずを、長さ4mm×深さ1.5mm(矩形スリット)とした。

3. 室内試験及び実機試験結果

- (1) 使用されているSS400、SPV490Q及びSM400Aに付与した基準きずの検出感度の差は概ね1dB以内であり、材質の影響は無かった。
- (2) 異なる長さや深さのスリットを採傷した結果、多くの採傷システムできずの断面積と検出信号に正の相関が確認され、きずの断面積により評価することが妥当である(図2参照)。
- (3) タンクの底部溶接部を想定した3種類の溶接試験片を用い検出性を確認した。試験面の凹凸によるきずの検出性は、綺麗な手動溶接とサブマージ自動溶接では同程度の検出性であったが、荒れた手動溶接ではノイズが大きいきずの判別が困難なケースが確認された。また、下止端部では検出性が低下する傾向があった(図3～図5参照)。
- (4) 滑らかな継手形状(突合せ溶接)の余盛部にある長さ7mm×深さ0.3mmの割れきずを採傷し検出できることを確認した。
- (5) シミュレーションにより平板に対する溶接部(余盛部)の信号変化は基準きずの検出信号の75%程度であり、溶接部の凹凸形状が信号検出に影響を与えることを確認した。
- (6) 実機試験で実施したタンク内部の底部溶接線では、磁粉模様の長さが4mmを超えるきずを多くの採傷システムで検出することができた。

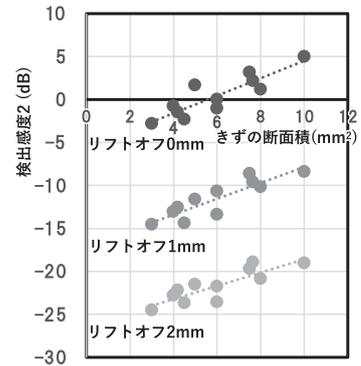


図2 きず断面積と検出特性(例)

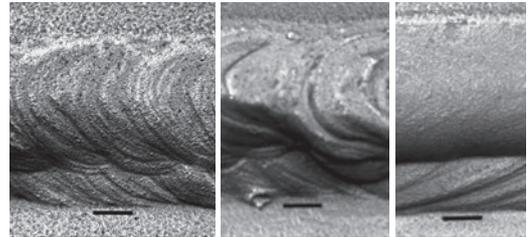


図3
綺麗な手動溶接

図4
荒れた手動溶接

図5
サブマージ
自動溶接

4. 適用性の検討

ECTを適用する場合は、採傷システムが基準きずを検出できる試験面の条件を満たしていることを把握する必要がある。また、溶接継手の形状やリフトオフに合わせた感度補正、角度感度特性、オフセット特性を考慮する必要がある。

5. 省令の改正

令和7年12月23日に危険物の規則に関する規則の一部を改正する省令(消防危第257号)が公布され、完成検査前検査でMT又はPTに合格している底部溶接部に対する保守検査でECTを適用することができる。

6. 最後に

本調査検討において、ETWGに参加頂いた会員企業の多大なる協力に感謝するとともに、非破壊検査の生産性向上を図るためのデジタル化に興味をもち会員企業の益々の発展を祈念する。

[参考文献] 新技術を活用した屋外貯蔵タンクの効果的な予防保全に関する調査検討会

https://www.fdma.go.jp/singi_kento/kento/post-162.html

危険物の規制に関する規則の一部改正に伴う屋外貯蔵タンクにおける渦電流探傷試験に関する運用について

https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/251223_kiho_4.pdf

問合せ先：日本非破壊検査工業会 事務局 渡邊 正宏

TEL：03-5207-5960 FAX：03-5207-5961 E-mail：m.watanabe5207@jandt.or.jp

西日本支部 令和7年度技術交流会を開催

令和7年11月7日、西日本支部(清水重之支部長)は、九州機械工業振興会(北九州市戸畑区)において、JSNDI九州支部「技術サロン」との共催により「JANDT西日本支部技術交流会」を開催した。

当日は以下の3件の講演が行われた。

- ・計測検査の小田隼人氏による「IRIS M 振動を可視化する装置の紹介」
- ・ウイズソルの永田博幸氏による「ワイヤレス技術を活用した超音波連続板厚測定の実用事例」
- ・東亜非破壊検査の鈴木大介氏による「パルス渦電流法を用いた腐食検査技術適用事例」

いずれも最新技術の動向や現場の作業における実情など非破壊検査の実務に直結する内容で、参加者41名の関心は高く、質疑応答も活発で盛況のうちに終了した。終了後の懇親会には20名が参加し、登壇者を交えた意見交換を通じて交流を深める有意義な機会となった。



講演の様子

危険物保安技術協会タンク審査部職員へET講習会を実施

当工業会は、危険物保安技術協会からの要請により、同協会タンク審査部の職員(17名)に対し渦電流探傷試験(ET)講習会を実施した。当工業会が令和6年度に受託した「新技術を活用した屋外貯蔵タンクの効率的な予防保全に関する調査検討業務」の結果を踏まえ省令が改正される。詳しくはそのガイドラインによるが、タンク底部の溶接線に対して渦電流探傷試験の適用が可能になることから、KHK職員へのET関連専門知識に関する内部研修である。渦電流探傷試験の座学から実習までの1日コースを3回(10/3、10/10、10/17)実施した。担当講師を以下に紹介する。

氏名	所属	資格等	主な経歴
渡邊 正宏	日本非破壊検査工業会	JISZ2305 ETレベルⅢ他	熱交換器のチューブET
出牛 利重	日本工業検査	JISZ2305 ETレベルⅢ他	石化プラントのチューブET全般、屋外貯蔵タンクの新設、開放点検全般
深谷 義弘	ダイヤ電子応用	機器メーカー代理店 技術担当	Eddyfi (ETC) トレーニング終了者

安全部会 ～令和7年度の安全衛生標語選出作品～

(敬称略)

安全 標語	優秀賞	三井E&Sテクニカルリサーチ	飯塚 俊男	小さな異変 見落とすな 見て見ぬふりは 災害要因
	優良賞	東洋検査工業	小沼 俊彦	急がず 焦らず 油断せず 基本順序で 無災害
衛生 標語	優秀賞	理工サービス	工藤 美穂	感謝の気持ちと助け合い みんなで築く さわやか職場
	優良賞	ウイズソル	小枝 真也	「声かけ・気遣い・支え合い」 チームでつくる健康職場



“診る”を究めて
人と技術を「安全」という強固な絆で結び、「安心」を提供します。

新日本非破壊検査株式会社

営業本部 〒803-8517 北九州市小倉北区井堀4丁目10番13号
TEL: 093-581-1234 FAX: 093-581-4567

東京営業部 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町16-9
aLATO日本橋小伝馬町 3階
TEL: 03-6661-1307 FAX: 03-6661-1308
<https://www.shk-k.co.jp>



EVIDENT

OmniScan X4、史上最高スペックへ128:128 対応



- 64:128モデルにオプション追加で128:128へアップグレード
- 本体上でマトリックスアレイプローブの設定が可能
- 応力腐食割れ(SCC)など複雑な検査で真価を発揮



エビデント・インスペクション・テクノロジーズ・ジャパン株式会社
☎0120-255-072 ims.evidentscientific.com



2025年度後期 第23回インフラ調査士一次試験を実施

11月13日学科試験（一次試験・再試験）が関東・関西で同時に行われた。

【学科試験】新規受講・受験者数：54名、
再試験者数：13名

資格	橋梁（鋼橋）	橋梁（コンクリート）	トンネル	付帯施設
受験者数	55名	56名	54名	63名
合格者数	39名	26名	30名	43名

【二次試験】1月28日～29日

試験会場：川崎市産業振興会館
（神奈川県川崎市幸区堀川町66-20）

【講習会等の開催情報】

インフラ調査士講習会	[教育部会]	10月17日	オンライン（Zoom）講習会	受講者 54名
配筋探査オンライン講習	[教育部会]	10月7日～27日	eラーニング	受講者 49名
第4回エックス線安全取扱教育講習	[安全部会]	11月4日～12月31日	eラーニング	受講者 274名

【講師派遣情報】

日本鑄造工学会 「第32回鑄造品の超音波試験技術者養成講習会」 東京会場 2日間：11月20日～21日

会員動向 令和8年1月31日 現在193社（東日本支部77社、関西支部42社、西日本支部40社、機材支部34社）

入会 ■賛助会員 JFEスチール株式会社 東日本製鉄所 品質保証室長 富永洋一
〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル
電話：03-3597-4377 E-mail:yo-tominaga@jfe-steel.co.jp （令和7年11月1日付）

サンコウの測定器・検査機器
新型鉄筋探知器 ReberEye

◆位置とかぶり厚を迅速探査！JASS5の検査に！

NEW



SANKO 株式会社 サンコウ電子研究所
東京：03-3254-5031 大阪：06-6881-1230 仙台：022-292-7030
名古屋：052-915-2650 福岡：092-282-6801
URL <https://www.sanko-denshi.co.jp>

Pony 可搬式エリアモニタ PEMG



特徴

- ・内蔵バッテリーで連続8時間稼働
- ・防滴仕様で屋内外問わず使用可能
- ・検出器ケーブルは最長30m
- ・視認性の高い大型表示ディスプレイ

主な仕様

- ・測定線種：X線、γ線
- ・エネルギー範囲：30keV～1.5MeV
- ・検出方式：GM管式
- ・測定範囲：0.1～999.9μSv

※オーバーフロー時、エラー時は「999.9」点滅表示

60 Pony ポニー工業株式会社 お問合せ先
www.ponyindustry.co.jp (大阪) 06-6262-6510 (東京) 03-5472-1091

**非破壊成分分析を
もっと手軽に**

携帯型成分分析計
Niton XL2/XL3t/XL5 シリーズ



Rigaku 製造元 thermo scientific

株式会社リガク 【営業本部 EDX・携帯機器営業推進部】 <https://www.rigaku.com>
TEL:03-5312-7073 Email: niton@rigaku.co.jp



支える、の一番近くに。

RIKOH-S
非破壊検査機器の販売・修理・校正・レンタル



工業X線発生装置 超音波探傷器 US38JE 超音波厚さ計 DM5E

カーリース（日本カーソリューションズ㈱代理店）
検査技術者の派遣（派34-300512）
お気軽にご相談ください。

理工サービス株式会社
〒733-0035 広島市西区南観音6丁目3番10号
TEL: (082)292-2552 (代) FAX: (082)295-0566
E-mail: rikoh@rikoh-s.com URL: <https://www.rikoh-s.com/>

